

⑨日本国特許庁(JP)

⑩実用新案出願公告

⑪実用新案公報(Y2)

昭54-35769

⑫Int. Cl.<sup>2</sup>

識別記号

⑬日本分類

庁内整理番号

⑭⑮公告

昭和54年(1979)10月30日

A 44 B 19 / 34

121 A 350.2

6537 - 3 B

(全3頁)

1

2

⑯編成支持テープを有するスライドフアスナー

⑰実 願 昭49-116205

⑱出 願 昭49(1974)9月25日

公 開 昭51-44404

⑲昭51(1976)4月1日

⑳考 案 者 藤崎義彦

黒部市植木15の5

㉑同 松田義雄

富山県下新川郡入善町上野2817

㉒同 坪川義時

黒部市岡95の1

㉓出 願 人 吉田工業株式会社

東京都千代田区神田和泉町1

㉔代 理 人 弁理士 宮田友信

㉕実用新案登録請求の範囲

経編テープ1の側縁部のウエール2aに隣接するウエール2bを縁部のウエール2aよりも嵩高に形成し、この嵩高ウエール2bにエレメント脚部4aの凹溝5を嵌合すると共に、エレメント脚部4aを嵩高ウエール2bの両側に配した広巾ウエール溝3a、3bに跨らせて経編テープ1上にエレメント4を載置し、その広巾ウエール溝3a、3bを刺通するエレメント縫着糸7、7によつて、前記各ウエール2a、2b及び広巾ウエール溝3a、3bの編地を夫々エレメント脚部4aに圧接固定したことを特徴とする編成支持テープを有するスライドフアスナー。

考案の詳細な説明

この考案は、経編組織によつて編成した支持テープの側縁部に縫糸でフアスナーエレメントを取付けたスライドフアスナーに関するものであつて、その目的は、エレメントの強度に悪影響を及ぼすことなく、テープに対してエレメントの脚部を広範囲に亘つて強力に密接させた状態でエレ

メントとテープとを一体に結合し、スライドフアスナーのエレメントに優れた取付安定性を与えることにある。

従来、此の種のスライドフアスナーには、エレメントの脚部に凹溝を設け、この凹溝に経編テープのウエールを嵌合させてエレメントのずれ動きを生じないように結合し、テープに対するエレメントの取付安定性を強化したものが提案されているが、次のような点に於いて未だ問題があつた。即ち、前記のスライドフアスナーでは、経編テープの側縁部に列設されている同一高さの各ウエールにエレメントの凹溝を嵌合させる関係上、必然的にエレメントの脚部には少くとも数条の凹溝を刻設するのが普通で、この凹溝の存在によりエレメント脚部の強度が弱められ、極く短期間のうちにエレメントが破損する恐れがあり、これを防止するためにエレメント脚部の凹溝を仮に最少限の1条とした場合には、テープ最端縁のウエールだけに嵌合することになつてエレメント取付部が非常に不安定になり、フアスナー開閉の際スライダとの関係において引掛かりを生じる。

そこで、この考案は、経編テープのウエール及びウエール溝とエレメント脚部との関係に独自の創意を凝らし、経編テープの特定のウエールを他の各ウエールよりも嵩高に形成すると共に、該ウエール両側のウエール溝を広巾に形成する特異な構造によつて、前記の問題点を解決したものである。

次に本考案を実施例の図面について具体的に説明すると、第1図はこの考案を適用した隠しフアスナーの一例を示すものであつて、本実施例の隠しフアスナーFには第2図図示のような断面形を持つ経編テープ1が使用され、経編テープ1のエレメント取付面1aは、該テープ1の側縁部のウエール2aに隣接するウエール2bを縁部のウエール2aよりも嵩高に形成し、この嵩高ウエール2bとその両側に隣接するウエール2a、2c

3

との間には、他の各隣接ウエール2c', 2c'間のウエール溝3cよりも巾広く形成した広巾ウエール溝3a, 3bが設けてあり、その編成組織は、例えば第4図に示す如く1/1のトリコット編組織Aに、編糸を4針間振らせたサテン編組織Bと、これに鎖編組織Cと経挿入糸Dを組合せて編成したものが用いられ、このうちテープ1の側縁部のウエールに隣接するウエール、つまりテープ最端縁部から2列目の鎖編組織C'には、特に太番手の編糸若しくは普通の太さの糸を2本以上引揃えた糸を使用し、且つ、第1列目と第2列目並びに第2列目と第3列目の組織間隔S<sub>1</sub>, S<sub>2</sub>は他の各列間の組織間隔S<sub>3</sub>よりも広くしてある。また本実施例の場合、エレメント4の脚部4aには、前記経編テープ1の嵩高ウエール2bに嵌合する1条の凹溝5が設けてあり、この凹溝5を嵩高ウエール2bに嵌合させると共に、エレメント脚部4aを嵩高ウエール2bの両側に配した広巾ウエール溝3a, 3bに跨らせて載置し、エレメント4の上下脚部4a, 4a間に適宜の芯材6を挿通して、このエレメント4を広巾ウエール溝3a, 3bを刺通するエレメント縫着糸7により経編テープ1に結合し、前記各ウエール2a, 2b及び該ウエール間の広巾ウエール溝3a, 3bの編地を夫々エレメント脚部4aに広範囲に圧接固定したものである。尚、前記実施例は本考案を隠しフアスナーに適用した例を示すものであるが、第3図図示の如く、経編テープ1に対してエレメント4の向きを前後逆に取付けたものは、普通型のスライドフアスナーF'として使用することが出来る。

上記のように、この考案によるスライドフアスナーは、テープ縁部のウエールに隣接する嵩高ウエールに、エレメントの脚部に設けた凹溝を嵌合させてあるので、エレメントのずれ動きが全く生じない事は勿論、その構造上、エレメント脚部の凹溝が最少限の1条でも充分であるため、凹溝の

4

存在によつてエレメント脚部の強度が弱くなることなく、またエレメントの取付に際しては、テープの嵩高ウエールの両側に配した広巾ウエール溝を刺通してエレメントを縫着するので、エレメント脚部の凹溝内に嵩高ウエールを圧入すると同時に、少なくともテープ縁部のウエールと前記嵩高ウエールの両側に位置する各広巾ウエール溝の編地が一体となつてエレメントの脚部に対して広範囲に密着するため、テープ側縁部のエレメント取付部に安定性があると共に、エレメントの取付自体も極めて強固なものになる。

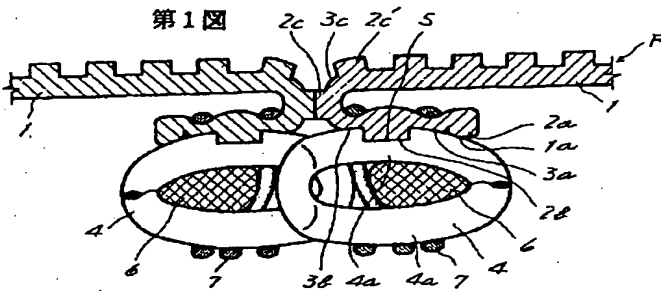
従つて、本考案のスライドフアスナーは、常に安定した状態で円滑軽快な開閉作用を行なうことが出来、然かもテープの側端縁がめくれる恐れがないので、今迄のようにスライダの摺動等によつてテープの側縁部が擦り切れたり黒く汚れたりまたスライダの摺動を重たくすることがなく、前記のようにエレメントの取付が強固で耐久性に優れている事とも相俟つて、実用上頗る顕著な使用効果を発揮するものである。

#### 図面の簡単な説明

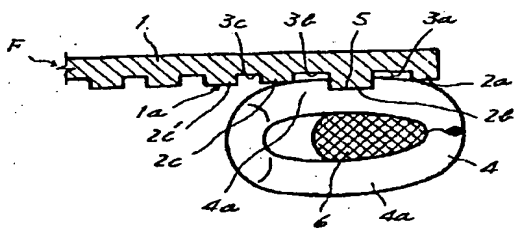
第1図はこの考案の実施例を示す隠しフアスナーの横断面図、第2図は同じく経編テープとエレメントの形状を示す横断面図、第3図はこの考案を普通型のスライドフアスナーに適用した実施例を示す横断面図、第4図は経編テープの編成組織の一例を示す組織図である。

F……隠しフアスナー、F'……普通のスライドフアスナー、1……経編テープ、1a……経編テープのエレメント取付面、2a, 2b, 2c, 2c'……経編テープのウエール、3a, 3b, 3c……経編テープのウエール溝、4……エレメント、4a……エレメント脚部、5……エレメント脚部の凹溝、6……芯材、7……エレメント縫着糸、A……トリコット編組織、B……サテン編組織、C, C'……鎖編組織、D……経挿入糸、S<sub>1</sub>, S<sub>2</sub>, S<sub>3</sub>……組織間隔。

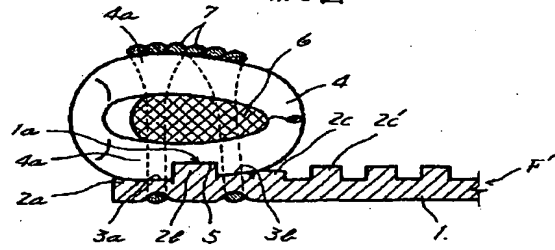
第1図



第2図



第3図



第4図

